

「はいはハイ、いいえはイエエ」

～主が戦う祈り～

ヤコブ 5:12 ~ 18

■ 幸せになるための秘訣

私たちの人生には、様々な苦難が起こります。そんな時に私たちは他者と比較して自分だけが苦しいと勘違いしてしまいます。聖書には、神の言葉を信じ歩んだ人々の生き様が書かれています。そのなかから今日は、「はい」「はい」「いいえ」「いいえ」とだけ答えなさいという箇所から学んでいきたいと思えます。成功者は、みんなから評価されて非の打ち所がないと思われています。しかしその背後には色々なことがあります。成功者も私たちと同じ人間です。成功者とは、問題が起きないことや批判されないことではなく、何かが起こった時にどう対処するかということです。成功…つまり自分の人生が幸せになるための秘訣は、自分の人生に起こる問題から逃げるのではなく、どう向き合ったかです。このことは何千年も前からずっと聖書によって私たちに教えられています。

私たちは、自分に対して非難が起こると、それに対して「はい」と言いません。その批判に対する原因を、自分にしなくて別の理由を用いて探ろうとします。また、起きた出来事についてよく理解していないのに、自分の中で間違った整理をして言い訳をしてしまいます。先週まで私たちは忍耐をなさないと学んできました。今週はこの「はいはハイ、いいえはイエエ」が語られています(ヤコブ 5:12)。なぜいきなり 12 節で「誓わないように」と言われたのでしょうか。それは、私たちは、責められたり批判された時が一番忍耐できないからです。そしてこんな時に発する言葉は、本当は言いたくない感情にまかせたふさわしくない言葉です。この言葉は、本当の自分はしたくない決断ですが、それに合理的な理由をつけて宣言してしまうのです。例えばペテロです。ペテロはイエスさまが大好きで死ぬまでついて行くと言っていました。ところがイエスさまが捕えられ、民衆にイエスの弟子ではないかと責められた時、ペテロは自分の本心(死ぬまでイエスさまについて行く。イエスさまが大好き)を忘れて恐怖から、民衆の言葉を打ち消して否定し(マタ 14:68)、誓って「その人を知らない」と言ってしまいました(マタ 14:71)。民衆に追及された時「はい。一緒にいました」と言えればよかったのです。のちにこの裏切り行為をペテロはそれ以上に悔い改めることになりました。

■ 苦しんでいる人はいますか？ (13 ~ 16 節)

この箇所には人間の心理的メカニズムが解説されています。私たちは自分に対する批判を聞いた時、私が悪いのではなく、別に理由があるはずだと合理的理由を探します。そうすると自分の内側で自己否定と自己義認の二つの思いが戦います。このようなアンバランスな心では、私たちは心身共に疲弊していきます。そんな中でまず「信じて祈れば癒される(13 ~ 15 節)」と語られます。しかし、もし罪を犯しているならそれを言い表しなさい(16 節)と語られています。自分の内側で自己否定と自己義認の二つの思いが戦っている最中に罪を言い表すことは、自分が悪かったと認めなければならないので本人にとっては、とても苦しいことです。そこで神さまは、「祈ってもらいなさい(14 節)」と慰めをくださっています。自分ではなく祈ってくれる人たちのことを言っています。祈ってくれる人たちは、自分がなぜ病に陥っているのかを判断するのです。だからここでは長老という言葉を使っています。神の目線になってその人を見ようとする人です。この世には 2 つのパターンの人がいます。一つは悪意を持って私を批評してくる人。もう一つは愛を持って私の愛に応えようとする(神の似姿に戻そうとする)人です。私たちは多くの場合前者の声に耳を傾けがちです。自分に愛を持って話してくれた人の言葉は聞きません。私たちはしたいことが出来ずにことさらしたくないことを尊んで行ってしまおうという言葉の通り間違った決断を毎日繰り返してしまうのです。

■ 攻撃から守るための城壁と、その中にある大切な井戸

イスラエルには、敵が攻めて来た時に中に入らせないための大きな城壁があります。当時の戦いでは、この城壁の内側に多くの国民が閉じこもっていました。ですから食糧を貯えて水を確保しておかなければいけません。この水の確保のために城壁の中の井戸は大切なものでした。私たちの心には敵からの攻撃から守るための城壁がありますか？正しく城壁を管理し、正しく城門を開閉しているのであれば何も問題ありません。しかし、平和ボケして持っていないか、攻撃も筒抜けのポロポロに壊れた城壁や、「だれも信じない」といつも固く閉ざされた壁を持っているのではないのでしょうか。長い間の戦争の中、イスラエルの民は完ぺきな城壁を築いていました。ローマ帝国はイスラエルに兵糧攻めを仕掛けます。構造上、イスラエルには地下通路がたくさんあり、もしもの時にはこれを利用して

食糧の供給ができるようになっていました。しかし、その地下通路を上手に使えなかったり、城壁の内部で分裂が起こって国が一つにまとまっていなかった。だからローマ軍に取り囲まれた時、内部で争いが起きました。そんな時、ローマ帝国は外から石投げを使って井戸を壊そうと石を夜中打ち込んできました。水が絶たれては籠城できないからです。結果イスラエルは負けました。私たちの心も同じです。私たちの心に攻撃してくる者どもの言葉は、私たち自身ではなく、心の井戸を狙っています。心の井戸は、渴ききった心を潤す泉であり、希望であり、私たちの人生のいのちです。サマリアの女の話があります(ヨハネ 4:1 ~ 30)。イエスさまは、彼女の渴ききった心を的を得た短い言葉で井戸掘りをして潤したのです。サタンは、この希望・信仰の源を絶つてやろうと、真実っぽい言葉の石を投げ続け、この心の井戸を狙い、私たちの心を兵糧攻めにして分裂を起こさせ、間接的に失望をもたらそうとしてきます。ですから、私たちは、聞く言葉を選ばなければいけません。その言葉が、善意からかけられたものなら「はい」と受け取り、悪意からくる否定的なものであれば「いいえ」と言わなければいけません。

■ はいはハイ、いいえはイエエ。

だから「はいはハイ、いいえはイエエと答えなさい」と言われています。その後「感情的に誓ってはいけません。あなたが罰を受けるからです」と言われています。そんな時、苦しんでいるのなら神さまの前に出て「苦しいです」と素直に祈りなさいと言われました。もし喜んでいるのなら、悪魔に足をすくわれて高慢になり自画自賛しないように神の前に出て「主は素晴らしい」と賛美しなさいと言われています。私たちは、心の井戸を攻められた時に守らなければいけません。ですが、私たちは、これを行う決断ができず、戦う敵も見違えてしまいます。本来は一緒に戦う相手がいるのにその相棒を敵だと思ってしまうのです。

■ 良くする言葉・悪くする言葉～聞き分ける言葉～

(II コリ 4:13-18) みなさん、信じている言葉を語りましょう。余計なことを語ってはいけません。必ず神さまの前に立つ時が来てその時にはすべてが解決されるから信じて、信じたことだけ話しましょう。この 16 節に書かれている「内なる人」が井戸なのです。心の内側の井戸、つまりいのちの渴かない泉が湧きあがれば、外敵が城壁を壊そうとも守られるのです。しかし、この外敵の攻撃(言葉・目に見えるもの)を見誤って内側に分裂をもたらされ内側から破壊されてしまうのです(18 節)。ですから見えるものではなく見えないものにこそ目を留めましょう。あれだけ堅固な城壁を築いていたイスラエルもローマ帝国に敗れたのです。目に見える状況で右往左往して仲間を敵としてしまいいきこひきをして本当の敵が夜な夜な井戸を破壊しようとしていることに気づかない…こんな状況にならないためにも良くする言葉・悪くする言葉を聞き分けましょう。

■ はいはハイ～本質を聞き分ける～

さらに本質を聞き分けることが大切です。良くする言葉を聞き分け、良くする言葉を言う側になった時に相手は、私たちに間違っただけ情報を伝えます。人は自己防衛をする時、自分に都合の良いように話します。何か事象が起きた時、それに目を向けるのではなく、その背後と神さまがそれをどうしようとしているのかを見極める必要があるのです。問題・患難にあった時ダビデは「私の助けは、天地を造られた主から来る。(詩 121:2)」と言いました。本質を見極める・聞き分ける者になりましょう。

■ はいはハイ～人を変えるのは内側にある泉～

今、自分の心の内側を見てください。自分の本音で生きていますか。過去に起こった出来事や間違っただけ決断をすることで、多くの人々を巻き込んで苦しめていませんか。一人の正しい生き方は周りの人を変えます。「力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく(箴 4:23)」敵が私たちに兵糧攻めを仕掛ける時、私たちは信じて力の限りそれを見張らなければいけません。私たちが守らなければいけないのは、私たちの心の内側にある泉です。諦めてはいけません。失望してはいけません。イエスさまは、私たちが弱って倒れないようにいつも祈ってくれています。だから私たちは大丈夫です。私たちの人生で、私たちの心の井戸に石を投げつける者が来たら、その石を取り除くのが私たちの仕事です。心の内側にある(渴きを潤す希望の)泉が人を変えるのです。

(要約者:行司佳世伝道師)

(2021年2月21日)